さて哈密といふ地名は元の時代になつて初めて史上に現はれ、元史には合迷里、哈密力、合迷裏、合木里、渴密里、經世大典の西北地附錄圖には柯模里などの字面で記されて居り、西人としてはマルコ・ポーロが初めてこれを Kamul の名で傳へたこと、またマリニョリの記錄にも同じ名で傳へてゐること Kamul は西紀第十三世紀にネストル派基督教僧正の管轄區であつたらしく西紀一二六六年に Kamul の僧正は教主 Denha の就任式に出席したことなどは善く知られて居ることである。[16] ブレットシュナイデル[17]はポタニンに據つて Kamul をトルコ名、Khamil を蒙古名であるといふてゐる。この文書には最後の綴りの母音を省略して qaml と書いてあるから、それが u か i かは今俄かに定め難い。Kamul といふ名はかく初めて元代から現はれたと認められて居るのであるが＝その以前漢史にはこの地を伊吾盧とか伊州とか稱して居つたことは今更いふまでもない＝前の Sulmï については如何に見るべきであらうか。ミュラー氏[18]は前述の通りこれを Sulmida 或は Solmida と讀み Calmadana=Cerčen に當るものではなからうかと見たが、勿論贊成しがたい。余の知る限りに於ては西域地方でこれに該當する地名は矢張り元代までは現はれてゐないやうである。元史卷百二十四、哈剌赤哈赤北魯傳に、この人が唆里迷國の人であつたことが見え、また成吉思汗時代にその國が別失八里から程遠からぬ處に在つた小國であると思はれる記事がある。[19] 唆里迷の三字が Sulmï 或は Solmï の音を寫すに適當した文字であることは格別論證を要しまい。

此の如くこの文書に見える qaml や sulmï が西紀第十三世紀頃から史上に見える地名であるとして殘る一つの küsän については如何に考へるべきであらうか。余はこれをも哈密力や唆里迷に程近い處で元代には曲先といふ文字でも記されて居つた今の庫車、即ち以前の龜茲に當るものと考へる。蒙古の崛起時代から元代にかけての漢文の